



市制施行130周年記念事業

「130」でつむぐ松山 入賞作品決定



市長から記念品を授与

「130」でつむぐ松山」では「はがき部門」と「ことば部門」に合計1262点の応募があり、有識者などの審査や一般市民の投票による最終審査を経て、入賞作品291点を決定。平成30年12月9日に子規記念博物館での表彰式で、入賞者に市長などから表彰状が授与されました。

表彰式で野志市長は「皆さんからもらった温かさの一つ一つを未来にのこしていきたい」とあいさつ。審査員を務めた、ことばのちから実行委員会・五百木幸子委員長は「手書きの伝わる力、松山の温かさを改めて発見できた」と総評し、絵手紙創始者・小池邦夫さんは「正岡子規が短いことばを全国に広め松山の財産にした。今後も書くことを続けてほしい」と話しました。

また、「絵やことば」で伝える」と題して、小池邦夫さんの講演も行われ、幼少期に友人へ手紙を送り続

松山市は明治22（1889）年12月15日に市制が施行され、今年、130年の節目の年を迎えます。そこで、市制施行130周年記念事業「130、でつむぐ松山」で未来にのこしたい松山の「温かさ」をテーマに募集した「絵やことば」の中から、入賞作品291点を決定し、表彰式を開催しました。



絵手紙の魅力語る小池さん

全入賞作品は、左表のとおり展示します。

日程	場所
～1/7(月)	子規記念博物館（道後公園）2階ロビー
1/4(金)	総合コミュニティセンター（湊町七丁目）コミュニティプラザ ※最優秀賞・優秀賞・特別賞のみ展示
1/8(火)～2/1(金)	市役所本館1階ロビー
2/5(火)～28(木)	坂の上の雲ミュージアム（一番町三丁目）2階ホール

※この後は市内各地で巡回展示を予定。詳細は市ホームページを確認



二次元コード

ことば部門 (130マス)

はがき部門 (130平方センチメートル)

最優秀作品の紹介



温泉に行くといつもざぶんと入って、泳ぎたくなる気持ちを書きました。

藤崎 鈴夢さん（湯築小3年）  
 ぼくのすむ町には、道後温泉本館がある。一人で入り行くこともある。番台で百六十円出して、くつをぬぐ。はだかになつてあせを流す。もくもく湯気の神の湯にざぶんとつかる。およぎたくなるけどいつもがまんする。ぼくがおいじいさんになつてもずっとずつと道後温泉に入りたいな。

小学生の部

道後温泉とぼく



松山城が好きで、自分と友達の4人をイメージして描きました。



若松 桃花さん（清水小4年）  
 楽しいこといっぱい、大好きまつやま

小学生の部



いつも友達としていてる会話を思い浮かべて、一気に書き上げた作品です。

北地 鼓太郎さん（高浜中2年）  
 命を吹き込まれた伊予弁は松山を縦横無尽に駆け巡る。「大丈夫やけん」「ゆっくりでがまんよ」「ほら、貴方の家の中にも。生を享けた伊予弁は人の心に火を灯す。ポツと明るくジンワリと。伊予弁が生き続ける限り、松山には、永久に「愛顔」が溢れています。

中学生の部

伊予弁は、脈動する。



松山の人ならきつとこの道を歩くと思ひ、松山城へ続く道を描きました。



山内 愛花さん（湯山中1年）  
 あなたの道

中学生の部



自分の中に残っている、祖母によくかけられた「ことば」を書きました。

松山帖句さん  
 「ぬくいわい」「ほうよ」松山の春はこんな会話で始まる。「頑張るんぞね」と祖母がくれたお守りをつけた球児の夏。松山茄子の煮物を「味がようしゅんどらい」と頬張る家族の秋。「体に気をつけらんよ」と故郷を離れた我が子にみかんを送る冬。「もんたよー」あつ、春がまた帰って来た！

一般の部

温かき言の葉のまち



社会人になった息子や、会っていない友人を思って描きました。



別府 泉さん  
 松山はお城も人も温かい

一般の部